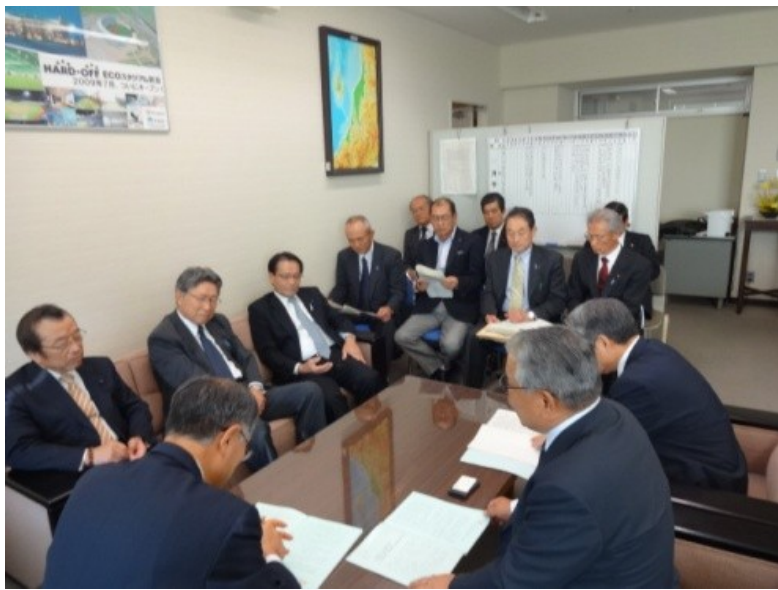


吹き払い柵の設置促進、歩道の整備・フラット化をいつときも早く 県道新井柿崎線整備促進議員連盟が3県議とともに県土木部長に要請

市議会の県道新井柿崎線整備促進議員連盟（宮崎政国会長）のメンバー9人は29日、新潟県庁へ出かけ、田宮強志土木部長にたいして吹き払い柵の設置促進、歩道の整備・フラット化、路盤改良などを要請しました。これには、連盟の顧問である小山芳元、小林林一、楡井辰雄の3県議からも同席してもらいました。

要請書には、連盟が7月31日に実施した現地調査に基づいて整理された21項目が盛り込まれています。宮崎会長は、「今回で要請活動は8回目になる。私らなりに精査しながらお邪魔している」とのべた後、「板倉区内には側溝にフタがされておらないところがあり、冬場になると、子どもが落ちないかと心配の声が上がっている」「頸城区内では、路盤が軟弱で、周辺地域の人たちからは、毎日、地震に遭っているよ



うだとの声も寄せられてい

の方が転ぶ可能性もある」などと整備要望個所について説明しました（写真）。

これに対して田宮土木部長や道路管理課長などが、要望個所の今後の対応について回答しました。このなかで田宮部長は、「昨冬、柿崎区内の吹き払い柵が壊れた原因究明はまだ終わっていないが、高橋新田―江島間の固定型吹き払い柵の新設を含め、約3000万円かけて約200口の整備・修繕を行う」ことを改めて明らかにしました。これに関しては9月県議会でも補正予算が計上されています。また、野尻から新井方面の歩道設置要望については幅広路肩で対応し、要望個所を今年度で整備完了させる考えであることも明らかにしました。

原発、ごみ問題で質問集中

市民プラザでの議会報告会

日本共産党市議団は29日、議会報告会を市民プラザで開催しました。

日本共産党上越地区委員長を兼ねている上野議員が市長選をめぐる経過について説明した後、平良木議員が約20分間、市政の重要課題について報告。その後、質疑応答、意見交換を行いました。参加者は10数名と少なかつたものの、意見交換などは活発で、予定時間を30分もオーバーするほどでした。

参加者からは、「避難は原発が爆発してからでは遅い。それ以前に対応できるような働きかけを」「風による放射性物質がどんなふう運ばれていくかだけでなく、原発からの放射線そのものがどうなっていくのかも究明すべきだ」「どんな避難計画を立てようと机上の空論とな



【クルマバナ】漢字で「車花」と書きます。シソ科の多年草。花は唇形で淡紅色です。山地、荒れ地の日当たりのいい場所で、8、9月頃咲きますが、まだ花が残っているものもあります。写真は柿崎区水野で23日撮影。



「高年齢者世帯などでゴミを分けるところが増えている。もっと支援を」など原発問題とゴミ問題でたくさんの方の質問、意見が寄せられました。

一般質問の質問席常設化で議論へ

先の代表者会議において、滝澤議長から、「党派・創風から来年度予算要望として一般質問席の常設化が出されているが、この際、天井照明と合わせて検討したらどうか」との発言がありました。日本共産党議員団と無所属の議員などから反対の声が上がったものの、検討すべきとの声が多数を占めました。8日も、この問題をめぐり代表者会議が開かれます。

午後六時半、「のうのいとこ会」がいよいよ始まるうとした時でした。会長のフミエイさんが上座の真ん中のテーブルに四個のコップを置きました。その時、なんだろうと思っただけですが、理由は会長の開宴の挨拶ですぐにわかりました。

「これは足谷のばちや、これは狭山のおじさん、これはうちの親父、そしてこれは千葉のおじさん……。おめたばっか、うんまい思いしねで、おれたちも仲間にしろと言わんぬうちに用意させてもらいました」フミエイさんが用意した四個のコップは母の実家、「のうの」（屋号）出身者で、すでに亡くなった人たちにも宴会に「参加」してもらおうというフミエイさんの粋な計らいだったのです。

今回のいとこ会の会場は伊香保温泉のホテルです。フミエイさんの「心を開いて楽しく語り合ってください」という挨拶のあと、天ぷら、煮魚、豆腐、そば、寿司、焼き肉などの料理をいただきながら、おしゃべりを楽しみました。

一時間くらい経ってからでしょうか、誰かの呼びかけで家族の近況報告などのスピーチをすることになり、みんなが上座の真ん中のテーブルまで行き、次々と語りはじめました。このテーブルにはコップだけでなく、おちょこも並んでいました。亡くなったおじさんやおばさんのためのビールやお酒を前にして語った話はユーモアたっぷりのものもあれば、しんみりとするものもありました。

みんなの拍手で立ったのは板山出身のモトエイさん。七月一〇日に北里大学病院で腎部分の切除手術を受けて、ようやく元気を取り戻しつつあります。出欠届のはがきに「約二七〇」切ったと書いてあったこともあって、話は手術のことが中心でしたが、最後に「『のうの』の血筋はすごいまとまりがあり、パワーを感じる。健康に留意して頑張りたい」と結ぶと、再び大きな拍手を浴びました。

孫が二人になったという千葉のヨシエさん。「皿を片づけようと思って、嫁さんにあげようかと言ったら、『いらぬ』と言われた。家具もいらぬ、洋服もいらぬ、ついでに親も……」「お互い、変わってきたな」と思います。いつまで生きられるかわからないけど、元気なうちは参加したい」との発言は笑いと拍手でした。

私やアイジさんとともに遅くなってホテルに到着した板山のシュージさん。まずは遅くなったことを詫言いました。「前の職場の女の子から結婚式に出てくれと言われ」と言った途端、「何かあったのか」とヤジが飛びました。「何もなかった後、今年から田んぼを増やしたこと、おばさんが元気であることなどを報告しました。

参加者の中で一番年若いのは埼玉のユウジさんでした。まだ四〇代です。「みなさん、お疲れ様です。きょうはDNA（遺伝子）を思ったんです。正直言って、セイゴさんとは久しぶりに会ったんですよ。三十数年ぶりかな。死んだ親父かなと思っ……」そう言ったところで、足谷出身のタカジさんが間髪をいれず声をあげました。「これがいとこ会のいいところだよ、なっ」。ユウジさんの「死んだ親父かなと思っ」には拍手喝さい、もう最高の盛り上がりでした。

「のうのいとこ会」は昨年が続いて二回目。心をこめて準備してくれたエツオさんやトモコさん、気の利いた会を演出してくれたフミエイさんなどのおかげで昨年以上にいい会になりました。みんなと別れるとき、宴会では黙っていた奈良のカツエさんが切ない声で「元気でねー、またねー」と言いました。その姿が忘れられません。

公募公選制の下でどう裾野を広げていくかなどでも議論

22日、市役所で行われた第2回上越市地域協議会検証会議の続報です。今回は、①委員の定数、任期、報酬などについて、②公募公選制の下でどう委員の裾野を広げていくかの2点についてお知らせします。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月23日(水)	10月30日(水)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.043	0.040
頸北消防署	0.046	0.056
頸南消防署	0.040	0.040
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.048	0.040

①については、「13区では、人口減、高齢化のなかで減らしてもいいのではという意見が複数区から出た」「なり手がいないという実態がある。何が適切かはむずかしいが、ドイツでは人口で決めている」「会長との意見交換会では、一度にがらっとメンバーが替わって、実質的に動き出せないという問題が指摘されている」「半数改選があってもいいのではないかな。スムーズに委員を確保出来るなら、2年ごとあってもいい」「報酬については、報酬をくれという話ではないと理解している。（1200円が安すぎるという話だ）」などの意見が出されました。これらは今後整理されることでしょう。

②の公募公選制の下でどう裾野を広げていくか。この問題は「実際に女性や若者が出たところでは活性化してい

る。長い目で見ながら努力していくことが必要だ」「出前協議会方式が広まってきたという印象があるが、全体としてまだかたい議論がされているというイメージがある。子育てではどんな悩みを持っていますか、と軽く入れるイメージがほしい。まちの人たち、団体の人も定例会に加わって審議する方法があってもいいのではないかな」「楽しいことがないと若い人は入ってこない」「女性や若者が発言しやすい雰囲気づくりをするためにも会長間で交流が必要だ」など発言が続きました。



写真は27日、大島区菖蒲そばまつりの様子。